磁性体の統計力学

Toshiya Tanaka

2022年4月7日

1 方針

大まかな流れは,次のようである.

- 1. 分配関数の計算
- 2. エネルギー、磁化、磁化率の期待値の計算
- 3. 温度、磁場に対する振る舞いを考察

この方針は変えず、個々の系に対し様々なテクニックを使う.

2 すべての spin が独立にある場合

N 粒子系を考える.粒子 j の spin を $\sigma_j=\pm 1$ で指定し,スピン角運動量の固有値は $\pm \mu_0$ とする.磁場 ${\bf H}$ 中にある系のエネルギー固有値は

$$E = -\sum_{j=1}^{N} \mu_0 \sigma_j \mathsf{H} \tag{1}$$

で,一つの粒子だけに注目したとき

$$E_j = -\mu_0 \sigma_j \mathsf{H} \tag{2}$$

である. spin1 つの期待値は期待値の定義から

$$\langle \sigma_j \rangle = \frac{1}{Z_j(\beta)} \left(\mu_0 e^{\beta \mu_0 \mathsf{H}} - \mu_0 e^{\beta \mu_0 \mathsf{H}} \right) \tag{3}$$

$$= \mu_0 \tanh(\beta \mu_0 \mathsf{H}) \tag{4}$$

である.

独立なので、一粒子の情報がわかれば十分で、一粒子の分配関数は

$$Z_i(\beta) = e^{\beta\mu_0 \mathsf{H}} + e^{-\beta\mu_0 \mathsf{H}} \tag{5}$$

$$= 2\cosh(\beta\mu_0\mathsf{H}) \tag{6}$$

である. よって、N 粒子あったとき、分配関数は

$$Z(\beta) = (2\cosh(\beta\mu_0\mathsf{H}))\tag{7}$$

となる. エネルギー期待値は

$$\langle H \rangle = -\frac{\partial}{\partial \beta} \log(2 \cosh(\beta \mu_0 \mathsf{H}))$$
 (8)

$$= -N\mu_0 \mathsf{H} \tanh(\beta \mu_0 \mathsf{H}) \tag{9}$$

である.

Definition 2.1 (磁化)

磁化を

$$m = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^{N} \mu_0 \sigma_j \tag{10}$$

と定める. スピンの平均値と思ってよい.

磁化の期待値は, Eq. (4) と期待値の線形性から

$$\langle m \rangle = \frac{1}{N} \sum_{j=1}^{N} \mu_0 \langle \sigma_j \rangle \tag{11}$$

$$= \mu_0 \tanh(\beta \mu_0 \mathsf{H}) \tag{12}$$

である.

Definition 2.2 (H = 0 での磁化率)

磁化率 χ を

$$\chi = \left. \frac{\partial m}{\partial \mathsf{H}} \right|_{\mathsf{H}=0} \tag{13}$$

と定める. 磁場 H を揺すったときの磁石になりやすさと解釈できる.

本筋とは外れるが、エントロピーを計算する. そのためにまず、Helmholtz free energy の計算をする.

$$F(\beta, \mathsf{H}, N) = -\frac{1}{\beta} \log Z(\beta) \tag{14}$$

$$= -Nk_{\rm B}T\log\left(2\cosh\left(\frac{\mu_0\mathsf{H}}{k_{\rm B}T}\right)\right) \tag{15}$$

ここから、エントロピーが計算できて、

$$S(\beta, \mathsf{H}, N) = -\frac{\partial}{\partial T} F(\beta, \mathsf{H}, N) \tag{16}$$

$$= Nk_{\rm B} \frac{\mu_0 \mathsf{H}}{k_{\rm B} T} \left(\cosh \left(\frac{\mu_0 \mathsf{H}}{k_{\rm B} T} \right) - \log \left(2 \cosh \left(\frac{\mu_0 \mathsf{H}}{k_{\rm B} T} \right) \right) \right) \tag{17}$$

となり、 H/k_B 単位で現れる.これを用いて、 $(T_1,H_1) \to (T_2,H_2)$ の断熱準静操作を行うとき,エントロピーが普遍なので,この単位も不変である.磁場 H をゆっくり変えることで温度を変えることが *1 できる.これを断熱消磁と呼ぶ.

References

[田崎 08] 田崎晴明. 統計力学. 新物理学シリーズ / 山内恭彦監修, No. 37-38. 培風館, 2008.

 $^{^{*1}}$ 主に低温を作る.